



MEMO



訪問介護事業所の

みんな^で考える 看取りケア



はじめに

「自分らしく生き抜きたい」、「自宅で最期を迎えたい」と考える利用者や家族が増えています。ホームヘルパーの皆さんはそのような願いを実現するために様々な工夫をしながら支援をされていると思います。

ホームヘルパーとして働くためには介護技術、コミュニケーションスキル、状況判断能力、リスクマネジメント、医学的知識等あらゆる知識と技術を有しておかなければなりません。ですが、「自分らしく最期を迎えたい」と考える利用者のニーズに対して訪問介護員養成研修が行われていた時代のテキストから介護職員初任者研修に変わった今も終末期や看取りに関する記述が少なく、十分に学ぶ機会がありませんでした。この冊子はそうした「自分らしく最期を迎えたい」と考える利用者と家族のニーズに応えるために支援を実現するためのポイントをまとめたものです。

冊子の使い方は次ページに書いてありますが、特定のケースを想定して書いたものではなく、利用者と家族のニーズや状況に応じて検討するためのものです。この冊子を活用することで少しでもより良い支援ができることを願っています。

帝塚山大学
心理学部心理学科 講師

博士(社会学) 高橋幸裕

活用方法

- この冊子はホームヘルパーとして終末期にある利用者や家族の支援をするためのものであり、特定のケースを想定して作成されたものではありません。冊子の使い方は以下のような方法を想定しています。
- 支援の依頼から終了までの共通事項を踏まえつつ、各事業所の状況に応じた形で自由に検討するための視点を示しています。例えば、チームカンファレンスの際に支援のポイントとして議論することや、終末期の利用者や家族に対する支援のためのヒントとして用いる、そして自学自習をする際の資料として用いていただければと思います。

登場人物



中堅ヘルパー
銀河君



新人ヘルパー
みずほちゃん



ベテランヘルパー
さくら先生



事業所代表
富士さん

看取りケアを担当するまでに身につけて学んでおきたいこと



利用者さんが最期を迎えるときってどんなことをしたらいいですか？
デリケートな問題で難しそう…。

事前に学習しておくのがいいわよ。ホームヘルパー（介護職員
初任者研修）や介護福祉士の資格を取った時のテキストを利用
するのもいいけれど、最近は看取りやターミナルケアについて
書いた専門的な本もおすすめよ。



学習のポイントは

- 1 緊急時の対応方法
- 2 ヒトの死とは何か
- 3 亡くなった後の対応



になるわよ。
あと、できるなら看取りまでを想定した研修（座学・ロールプレイ）の
機会を設けて学ぶのもいいことね。

ワンポイント コラム

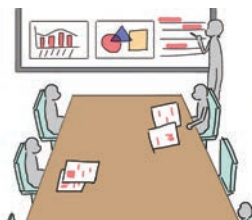
緊急時の対応方法

利用者の健康管理は大切な職務の一つです。利用者に急変が生じると慌てたり、冷静な判断ができなくなりがちです。それを防ぐためには消防局で行われている救命講習を受講するとよいでしょう。救命講習は119番をしてから救急車が到着するまでの間の応急処置方法を学ぶために開催されています。救命講習は普通救命講習（3時間）、上級救命講習（8時間）があります。救命講習はホームヘルパーとして使える知識の習得だけでなく、日常生活でも使えるものです。開催日時や費用等については最寄りの消防局に問い合わせてください。

看取りケアを担当することになった場合



今度新しく担当する利用者さん家族から相談されたんだけど、
利用者さんがターミナル期に入ってきているそうなんだ。
担当チームとしてどんなことをすればいいですか？



まず、ケアプランがニーズに合っているのかを考えることが大事ね。誰が
そのニーズを出しているのかを確認
すること！次にチーム体制をどうする
のかも大事なことよ。



ケース担当開始直後（担当第1回目）

初めて担当する利用者さん宅に行くときに、
どんなことをしておくといいのかな？ケアプランだけでは
全部のことはわからないから、ポイントはないですか？



利用者さん宅に行く前にケアプランの内容を確認して、
気になることやわからないことをまとめておくのが
いいわよ。それに、利用者さんと意思疎通ができるなら、
どんなことを望むのか、考えているのかを確認して
おいてね。家族からもどんなニーズがあるのかも
話をしながら考えるといいと思うわ。



ケース担当中(利用者・家族に関する共通事項)



実際にケアを開始すると利用者さんや家族に対していろんなことに気を配らないといけないと思うんだけど、具体的にはどんなことに気を配らないといけないですか？

ケアを開始する前には、利用者本人や家族からどんなことに気を付けたいのかを確認しておくことね。例えば、発言や行動について避けてほしいこと、こういったことに関しては喜んでもらえるとかね。



あと、利用者さんは体調が不安定なことが多いから、救急救命の方法を勉強しておくことも大事だけど、かかりつけ医とよく打ち合わせをして、急変や異常が起きた時に連絡方法や対応方法は確認しておくことよ。

ワンポイント コラム

発言と行動について注意すべきことを確認する

我々が日常生活で意識しないことでも、終末期の利用者や家族にとっては敏感になる発言や行動があります。支援の中で知らず知らずのうちにしてしまうこともあります。ですので、ケース担当開始当初に確認するようになっておくことが望ましいでしょう。もちろん支援を進めていく中で状況変化もあると思いますので、いつでも話ができる(相談できる)関係性を作っておくことが大切です。また直接聞くことが難しい場合は、ケアプランの見直しや何かの区切りの時に事業所の責任者を通じて聞いてもらうのもよいでしょう。

ケース担当中(ホームヘルパーによる支援)



これから利用者さんとのかかわりを始めていく中で、どんなことに注意を払えばいいですか？



利用者さんのことを知ろうとする姿勢を持つことよ。最初が肝心だからね。その次に「心の変化」に注意を払うことね。つまり、支援を始める中で相手の心の動きは大切よ。もちろん、支援の積み重ねの良し悪しによって、利用者さんの死後に家族が後悔するかもしれないかも変わってくるわ。



ケース担当中(利用者に関する事柄)

利用者さんとのかかわりで気を付けておくべきことってどんなことですか？



2つあるわよ。
1つ目は利用者さんの意思を尊重することよ。もちろん、家族の意向も大切にしないといけないわ。
2つ目は、どんなことがあっても冷静さを失わないようにすることよ。介護現場では1人で支援することが多いかもしれないけど、あなたには誰かがついていているということを忘れないでね。何かあったら「状況判断」と「連絡」ができるような冷静さを持っておくことが大切ね。



ケース担当中(家族に関する事柄)



利用者さん家族とのかかわりで気を付けておくことは
どんなことですか？

ケアは利用者さんばかりに意識が行きがちだけど、
家族も支援対象だということを忘れないようにね。
だからこそ、利用者さんの意思を踏まえながらも家族の考えを
十分に汲みとることをしておくことが大切ね。

そのためには積極的に情報共有をするように会話をする
時間や機会を作るようにした方がいいわ。
もし、利用者さんと家族の考えが違っているときは、担当者会議を開いてどう対応
をしたらいいのかを検討するのもいいわね。



ワンポイント コラム

家族の意思を尊重する(利用者との意向を調整する)

日常生活の中ではできるだけ利用者の意向を踏まえた支援を行います、場合によっては家族の意向と
相入れないこともあります。その場合、ホームヘルパーは板挟みになることを防がなければなりません。ど
うすればよいかというと、利用者と家族の両者が納得いく落としどころを探って対応できるようにすること
が大切です。言い方ひとつで相手の気持ちも変わりますし、工夫次第では両者も理解できるかと思えます。
常にホームヘルパーは最も身近で信頼し寄り添う存在でありながらも、第三者として中立的な立場になる
よう心掛けてください。

ワンポイント コラム

ケアを円滑にするために情報提供(コミュニケーション)を行う

近年はホームヘルパーが単独で支援を行うよりも医師や看護師等と連携しながらケアにあたることが多い
です。これをチームケアと言います。円滑なケアにするためには、多職種が混在する中で最も利用者と接する回
数が多く、かつ長時間関わっているホームヘルパーがキーパーソンになります。利用者や家族の日常的な変化
や動向はホームヘルパーにしかわかりません。そのためにも他の専門職と連携しながら情報を共有することが
大切です。そうすることで他の専門職からの知識や情報が得られ、より円滑なケアを実現することができます。

ケース担当終了直後



担当している利用者さんが亡くなってしまいました。
お葬式をするまでの間に介護職としてどんなことを
しないといけないですか？

まずは家族に対してお悔やみを伝えること。
その上で、家族に対して何かできることはないか、
してほしいことはないかを確認しておくことかしら。
何か依頼されることもあるかもしれないわね。
もちろん、何でもできるわけではないのであらか
じめ事業所内でルール作りしておくことね。



ケース担当終了後



利用者さんのお葬式などが一通り終わりました。
介護職としてどんなことをしていけばいいですか？

基本的には事業所内でルールがあるならそれに従うこ
とね。例えば、四十九日が過ぎてから挨拶に行くとか、
お手紙を書くこととかね。担当しているケースによっ
てどんな対応方法がいいか、どのタイミングで行うのがい
いかは担当者会議で決めるように体制づくりをしてお
いた方がいいわ。それとお通夜やお葬式に出るかどう
かも決めておいた方がいいわね。



事業所関係



これから看取りも含めた支援の依頼が増えてくると思うんだけど、事業所としてどんな基準で担当者を選べばいいのか？
また、支援終了後の担当者への対応方法はどんなことをすればいいのか？

担当者を選ぶ基準は、できるだけ利用者と家族のニーズが合う人を選ぶことです。相性や経験に不安があるならベテランさんもチームに組み入れることも行うといいと思います。

また、支援終了後は担当者も「あの時にこうすればよかった」と思うことがあると思います。だからこそ、担当するケースを

振り返る中でその思いを受け止められるようなメンタルケアをする場面を作ってあげることがいいと思います。



ワンポイント コラム

事業所はどのような基準で担当者を選定するか

利用者や家族に担当してもらってよかったと思う人選は、ホームヘルパーとの相性だけでなく事業所の人員配置の問題もあることからとても難しい問題であります。少なくとも終末期の利用者と家族を担当するホームヘルパーには、気付きや状況把握ができる人材を充てることが望ましいでしょう。利用者や家族の僅かな変化を見逃さないためにもこれらの能力が求められますし、あらゆる状況に対応できるからです。利用者や家族のニーズに応えるためにも経験年数だけで担当を決定するのではなく、所属するホームヘルパーの特性から判断してみてください。

おわりに

謝辞

今回作成した「訪問介護事業所みんなで考える看取りケア」は、独立行政法人日本学術振興会平成25-26年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(若手研究(B):課題番号25780362)「ホームヘルパーによる高齢者に対する看取りの体制づくりと支援のあり方に関する研究」の研究成果に基づいて作成されたものです。

この冊子を研究成果物として完成することができましたのは、日本ホームヘルパー協会役員・各支部長の皆様、ホームヘルパー事業所代表者様、ホームヘルパーの皆様、並びにみにくグループ代表の坂本和徳様の多大なるご協力によるものです。また、冊子に用いたイラストは帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科2年生の藤岡あかりさんが描いてくれました。描いてくれたイラストは温かみのあるもので、とてもよい仕上がりとなったと思います。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後に、ますます高齢社会が進行していく中で介護職の役割は重要になってきます。特に人生の最後をどのように締めくくのかということはますます重みを増してくると考えます。そういった社会の期待に応えるためにも職業としての介護の専門性を高められるよう、介護労働研究者として介護職の皆様と寄り添った研究をしていきたいと思います。

帝塚山大学
心理学部心理学科 講師

博士(社会学) 高橋幸裕

問い合わせ先： takahashi@tezukayama-u.ac.jp

発行年月日： 2015(平成27年)年3月1日

HP： <http://www.kaigoroudou.com>

イラスト： 藤岡あかり(帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科2年生)

編集： 株式会社マイ・ビジネスサービス

この冊子の無断複製および転載をお断りします。

非売品